

核戦争防止

兵庫医師の声

第 105 号 2019 年 12 月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5 F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

第 30 回反核医師のつどい in 京都を開催

核関連企業への投資やめさせよう



スージー・スナイダー氏（上）と目加田説子氏（下）らが

核兵器関連企業への投資を取りやめさせる取り組みについて意見交換したシンポジウム

「京都からアジアへ、そして世界へ 核兵器も原発も『ICAN』——。第 30 回反核医師のつどいが京都市内で開催された。特別シンポジウムでは、ノーベル平和賞を受賞した国際 NGO「ICAN」の中心メンバーであるスージー・スナイダー-PAX 核軍縮プログラムマネジャーや目加田説子・中央大学教授が講演し、核廃絶のため、金融機関の核兵器製造企業への投資を止めさせる運動の重要性が強調された。全国から医師、歯科医師、医学生ら 270 人が参加し、活発な議論が行われた。

（次面以降に企画詳細と参加記を掲載）

(1面からのつづき)

反核医師のつどい in 京都

市民の運動で核廃絶を

記念講演では、「核兵器禁止条約とトランプ政権の核政策」と題して、大阪女学院大学教授の黒澤満先生が講演した。

黒澤氏は、核兵器禁止条約の存在が、核兵器に「悪の烙印」を押し、核保有を認めてはならないとの認識を世界的に高め、核保有国の姿勢を変化させる可能性もあるとした。一方、トランプ政権の核政策については、中距離核戦力全廃条約（INF）の失効に加えて、2021年には新戦略兵器削減条約（新 START）が期限を迎え、米露間の核兵器に関する条約が消滅するおそれがあり、米国の核戦略は、過去 50 年で最悪の状況だと警鐘を鳴らした。

特別シンポジウムでは、スージー・スナイダー PAX 核軍縮プログラムマネジャーが核兵器関連企業に投資している金融機関のリストとその投資額を公開する取り組み「Don't Bank on the Bomb」について報告した。日本でもメガバンクの多くがリストにあるものの、投資額全体に占める核関連企業への投資額の割合は高くなく、投資をやめても金融機関への影響は少ないとした。また反核医師の会、保団連に対し、核兵器関連企業への投資を行わないよう金融機関に求める方針を示すよう要望した。

目加田説子中央大学教授は「クラスター爆弾と金融機関の責任」と題して講演。クラスター爆弾の製造企業への投資を行っている金融機関を調査・公表する NGO の活動により、金融機関の中でクラスター爆弾製造企業への投資を取りやめる風潮が高まり、クラスター爆弾廃絶への歩みが進んでいると報告した。

反核医師の会の原和人代表世話人が、会として日本の主な金融機関に核製造企業への投融資



核兵器禁止条約に至る各国の動きや現在のアメリカの核戦略について講演した
黒澤満・大阪女学院大学教授

の実績などを尋ねるアンケートを行ったと紹介し、今後も取り組みを広げたいと報告した。

他に、大飯原発運転差し止め判決を下した元福井地裁裁判長の樋口英明氏、長崎大学核兵器廃絶研究センターの中村桂子准教授が講演した。

最後に、参加者は「I CANが展開しているキャンペーン（Don't Bank on the Bomb～核兵器にお金を貸すな～）に賛同し、私たちも主体的に取り組んでいきたい」「ここ京都から核兵器の廃絶と原発の全廃を求めることを改めて決意し、その実現を世界へ訴える」などとするアピールを、拍手で採択した。

つどいには、松井一實広島市長、田上富久長崎市長、横倉義武日本医師会長らからメッセージが寄せられた。

参加記①

市民運動の輪を広げたい

会員 白岩 一心（赤穂郡）

今年の反核医師・医学者のつどいに参加して強く感じたことは、日本は、悪質な核兵器投資大国であることです。今までは武器輸出産業に

○反核医師の声 (3) ○

ついて学んできましたが、今年は、私たちの日常生活に欠かせない身近な金融機関が、資産運用の一方法として核兵器製造企業や武器製造企業に融資を行っている可能性を学びました。広島・長崎の被爆地での鎮魂を謳いながら、現政権の政策は、米国の核の傘に守られているという立場は変わりません。

政府に任せている年金の運用先としても核兵器製造企業に投資運用されている可能性があることも学び、個人として預金先の金融機関の運用実績も調査しなければ間接的に核兵器開発に手を貸しかねない実状にも強い懸念を抱きました。軍事費削減や核兵器禁止条約への批准を求めたり、集団的自衛権行使に反対したり、あらゆる市民運動への参加はもちろんのこと、メディアが報道しないところにも着目しなければならぬことを2日間で感じました。核の傘に守られているという妄想を持つ世界中の流れからも脱却し、世界の非核地帯を広げるためにも、今後の核兵器廃絶運動に参加したいと思います。

2日間を歴史文化の町・京都で過ごせた有意義な成果を、次世代の人たちにも受け継いでもらえるよう微力ながら努めていきたいと思えます。

来年に、千葉県幕張で行われる反核医師・医学者のつどいの時には、市民運動がさらに盛り上がっているように、この一年間をどう過ごすかを再考したいと思います。新たな誓いを胸に、市民運動の輪が広がることを切望しています。

参加記②

原発の危険性改めて学ぶ

運営委員 川西 敏雄（北区）

私は樋口氏の講演について振り返ります。

氏は2014年に関西電力大飯原発3・4号機の運転差し止めを命じる判決を下すとともに、15



原発差し止め判決を下した樋口裁判長が、原発の危険性を訴えた

年には関西電力高浜原発3・4号機の再稼働差し止めを求めた仮処分申請を認める決定を出しました。

今回の講演ではこうした判決や仮処分命令の根拠が示されました。氏は、「地震の揺れの強さを示すガルという単位がある。ガルは加速度の単位で、その地の揺れの大きさを示すもので、マグニチュードや震度とは異なる」と「ガル」を紹介し、「11年東日本大震災：2933ガル（マグニチュード〈以下、M〉9）、16年熊本地震：1740ガル（M7.3）、18年大阪府北部地震：806ガル（M6.3）など近年の地震のガルを示しました。そして、現在の原発の表向きの（捏造が疑われる）耐震基準について「大飯原発：856ガル、東海第二原発：1009ガル、伊方原発：650ガル、柏崎刈羽原発：未申請」と述べた上で、有名ハウスメーカーの住宅の安全基準値が5115ガルであることを紹介し、「住宅よりも脆弱な原発では、毎年発生するような震度6程度の地震にも耐えられない」と解説しました。

私は氏の講演を拝聴するのは3回目でしたが、回数を踏むにつれ、講演が分かりやすくなっていると感じました。

また、質疑応答で、「原発訴訟で勝訴するためには」との質問に対し、「国や電力会社が設定する専門的な土俵で勝負をしないこと」と示唆されました。この原稿作成中に東京電力福島第一

○反核医師の声（4）○

原発事故の責任を問われて、東電の旧経営陣3人が強制起訴された裁判で東京地裁が全員に無罪判決を言い渡しました。公判では巨大津波の予見可能性が争点となりました。しかし、地震時のガルと原発の耐震基準を示し、すでに地震により原発の冷却機能が失われていたという争点であれば結果はどうだったのでしょうか。この点は、元東電の技術者であった木村俊雄氏も告発しています。ここは重要な点で、木村氏はメルトダウンは津波でなく地震が原因だとしているのです。

そして樋口氏は「とにかく、原発は危ない」という根拠で判決や仮処分命令を出されました。当時、協会はこれらの判決等に対し支持する声明を発表しています。

参加記③

ユンドンジュ 尹東柱の足跡を感じる

運営委員 水間 美宏（東灘区）

「反核医師のつどい」に併せて実施されたオプションツアーで、宇治市の尹東柱記念碑を見学しました。

尹東柱さんは、今も韓国で人気のある詩人で、1943年、同志社大学の学生の時に治安維持法違反で逮捕されました。その美しく抒情的な

詩を、禁止されたハングルで書き、朝鮮独立運動への関与を疑われたのです。懲役2年の判決を受け、日本の敗戦まであと半年の時に、従兄と共に、27歳で獄死しました。

見学のあと岩波文庫の尹東柱詩集「空と風と星と詩」を購入しました。ハングルと日本語訳の載っている詩集を読み、直接ハングルで読めるようになりたいと思いました。

その後、私の所属する日本キリスト教団東神戸教会の会員で、70歳を過ぎて同志社大学神学博士となり、「日本の朝鮮支配と宗教政策」などの著書もある故・韓哲曦さんが、尹東柱さんと共に過ごした同志社大学内の記念碑建立に関わったことも知りました。私は京都府立医科大学キリスト教青年会（YMCA）の理事長もしていますが、YMCAの会員に尹東柱さんのことを伝えたいと思います。

私の祖母の祖父である桂太郎は、日英同盟で英国のインド支配を認め、桂タフト協定によって米国のフィリピン支配を認める代わりに、米英の後押しを受けて、日露戦争で朝鮮半島からロシアを追い払い、韓国を併合して日本の植民地としました。

最近の日韓関係の悪化を見るにつけ、尹東柱さんの足跡を記念することの大切さを感じさせる見学となりました。

核戦争を防止する兵庫県医師の会

2019 年度会費 ご入金のお願い

いつも反核医師の会にご協力を賜りありがとうございます。全国反核医師のつどいやさまざまな企画開催等、反核医師の会の活動は、皆さまの会費で成り立っています。

新年度会費のお振り込みがまだの方は、同封の振り込み用紙にて会費（年額 5000 円）のお振り込みをよろしくお願いします。

原水爆禁止世界大会 2019in 長崎 参加記

“核廃絶”被爆者の願い実現を

原水爆禁止2019年世界大会が、8月4日から9日に広島市内・長崎市内で開催された。7日から9日の長崎会場には、川西敏雄・坂口智計両運営委員、檜林歯科職員の藪内啓志氏が参加した。川西運営委員と藪内氏の参加記を掲載する。

参加記①

多数の署名で核廃絶の機運高めよう

運営委員 川西 敏雄（北区）

海外から代表として21カ国84名（各国団体・NGO・政府、国際機関代表・その他）の参加があった。

1日目は開会総会にて、安斎育郎氏（議長団）、田中重光氏（日本原水爆被害者団体協議会代表）、田上富久氏（長崎市長）、各国政府代表者、吉原毅氏（原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長）、稲嶺進氏（オール沖縄会議共同代表、前名護市長）らのあいさつ、ヒバクシャ国際署名推進・日本の核兵器禁止条約批准を求める呼びかけが行われた。

夜は、保団連主催の懇親会に出席し、地元長崎県保険医協会の本田孝也会長や保団連非核・平和部長の永瀬勉先生らと懇親を深め、情報交換に努めた。

2日目は16のフォーラム、分科会が開催された。分科会「核と基地のない日本、沖縄との連携を」では、コラソン・ファブロス・非核フィリピン連合事務局長より、在フィリピン米軍基地撤退の詳細と現在に至る顛末の報告があった。ジョセフ・エサティエ氏（戦争を超えた世界日本支部コーディネーター）の「基地は差別意識の表れ」という言葉が印象であった。稲嶺進氏が、「本日（8月8日）は翁長雄志・前沖縄



会場入口で預かった折り鶴を手に記念撮影を行う（左から）川西運営委員、藪内氏、坂口運営委員

県知事の命日だ。1年前の死去以後、県民は9月の県知事選挙・2月県民投票と、辺野古新基地建設反対の民意を示し続けてきた」と説明。

「沖縄には沖縄の、国には国の民主主義がある」と、沖縄の民意を軽んじる政権を強く批判し、交付金で儲けているというのはねつ造であると説明された。分科会終了後、平和祈念公園に広川クリニック、生田診療所、野村医院からお預かりした千羽鶴を奉納した。作成された皆さん、ありがとうございました。3日目は長崎原爆犠牲者慰霊平和式典並びに世界大会の閉会総会が執り行われた。被爆者への国家賠償・被爆者の尊厳をかけて闘ってきた運動経験を次世代に継承しよう／ヒバクシャ署名を自治体・地域で運動を発展させよう等々のスローガンが確認され、閉会した。

最も印象に残ったのは、山脇佳朗氏（被爆者



世界各国・日本全国から集まった参加者が
核廃絶のため取り組みの経験を交流

代表)の記念式典での「被爆者が生きている間に世界で唯一の戦争被爆国として、あらゆる核兵器をなくそうと働きかけてください。米国に屈することなく、核兵器廃絶への毅然とした態度を示してください」との発言だ。2年前にオバマ前米国大統領の“核の先制不使用”を思い出す。この“核の先制不使用宣言”に世界で一番難色を示した国が時の日本政府(安倍政権)だったことを忘れてはならない。

参加記②

「核兵器のない世界」めざして

明石市・榎林歯科 事務 藪内 啓志

原水爆禁止2019年世界大会・長崎会場に参加しました。世界大会開会総会は核兵器廃絶に向けた運動の盛り上がりで、熱気にあふれていました。国民平和大行進の全国通し行進者の紹介があり、今年89歳で、通し行進7年目の方の「核兵器廃絶まで通し行進を続けます」の発言に感動しました。

2日目は、分科会でした。私は東京電力福島第一原発事故による放射能の影響と核兵器の関

係を学んでみたいと思い、「核兵器と原発」の分科会に参加しました。この分科会では、私にとっていくつかの衝撃的な事実を学びました。①福島原発事故の時のアメリカ海兵隊の「トモダチ作戦」は核爆発下の軍事訓練だった。②原子力災害の広域避難計画では「全面緊急事態」になって避難指示が出る。普通避難指示は被曝をしないために出ると思っていたが、実際は「被曝を前提にした指示」である。③自民党議員の発言で原発は「核兵器開発を担保する技術」であり、廃止しない理由になっている。④「将来にわたって放射能をなくす技術はできない」とコーディネーターの安齋育郎先生が言われたこと。原発と人類は共存できないと思いました。

分科会には200人以上の参加者があり、各地から原発廃止の運動や「ヒバクシャ国際署名」の取り組みなどが報告されました。兵庫県からは国際署名をした自治体の首長の顔写真入りの署名用紙を作って、署名を広げていることが報告されました。

3日目、閉会総会(ナガサキデー集会)では、原水爆禁止2019年世界大会・長崎決議「長崎からのよびかけ」と、国際共同の行動のよびかけ、各国が核軍縮に向けて行動することや核兵器禁止条約への署名と批准(現在批准は25カ国、発効には50カ国以上の批准が必要)を訴える長崎特別決議が採択されました。唯一の被爆国である日本は、核兵器廃絶に向けて指導的立場が取れるのに、政府は「核の傘」に固執し、国民・被爆者の願いを踏みにじっています。

45年ぶりに原水爆禁止世界大会に参加し、核兵器廃絶の思いをさらに強く感じ、できることから行動を行おうと思いました。

最後に、弊院の榎林義雄所長やスタッフの協力でこの大会に参加することができたことに感謝します。

「ヒバクシャ国際署名」さらなるご協力のお願い

県知事らの顔写真入り 新署名用紙をご活用ください！

核廃絶に向けて反核医師の会が取り組んでいる「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶署名」（「ヒバクシャ国際署名」）。

このたび、県内の被爆者団体「兵庫県原爆被害者団体協議会」が、新しい署名用紙を作成しました。

この署名用紙は、署名に協力した、兵庫県知事をはじめとする県内の首長 18 人の顔写真を並べ、県内 15 地域の被爆者団体が訴えるものです（右写真）。

「ヒバクシャ国際署名」は 2016 年 4 月に広島・長崎の被爆者により始められました。「核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことをすべての国に求める」という被爆者の訴えに、賛同の署名を求めるものです。これまでに 1000 万筆を超える署名、全国で 20 都道府県 1173 市町村の首長から署名が寄せられており、国連本部に提出しています。

こうした世論により一昨年 7 月には 122 カ国の賛成のもと、国連で核兵器禁止条約が成立し、批准国は現在までに 34 カ国となりました。現在、日本政府はこの条約への参加を拒否していますが、唯一の戦争被爆国として、被爆の実相を世界に広く発信し、核廃絶に向けて国際的なイニシアティブをとるべきです。

来年 5 月にはニューヨークで核不拡散条約（NPT）の再検討会議が予定されており、さらに「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを加速させることが求められています。



兵庫県知事、県内の市長・町長の顔写真が入った新たな署名用紙

すでに取り組みいただいている先生方も多数おられるとは存じますが、何卒、いっそうのご協力をお願いいたします。また、これまでお取り組みいただけていなかった先生もぜひ、医療機関に署名用紙を置いて、患者さんへ署名を呼びかけてください。

※署名用紙のご注文は、電話 078-393-1807 兵庫県保険医協会事務局まで

芦屋非核平和都市宣言 34 周年・被爆 74 周年 非核平和祈念のつどい

10月12日(土)に予定していましたつどいですが、台風で会場が使用できないこと、来られる皆さんの安全を考えて中止しました。

その後実行委員会を開催し、ぜひ再度実施したいということで、短期間の準備となりますが下記のとおり実施します。是非ご参加ください。お待ちしております。

2019年12月19日(木) 14:00~16:00
芦屋市民センター203号室

被爆者として『生かされた』74年

お話 副島 罔義さん

プロフィール 広島で胎内被爆。兵庫県原爆被害者団体協議会事務局次長。
芦屋市原爆被害者の会幹事。芦屋市在住。

ドキュメンタリー映画 「核兵器の終わりの始まり」

アルバロ・オルス監督作品

国際組織や NGO のリーダーたち、各国の反核活動家、学者、そして国連の会議で議長を務めた外交官ら 14 名へのインタビューを通じて、核兵器禁止を国際法として確立させるため、ICAN がどのように活動してきたかが、生き生きと描かれます。

● 参加協力費 500円(高校生以下無料)

主催 芦屋非核平和のつどい実行委員会

代表 山本 緑 事務局 福田千種 TEL&FAX 0797-31-6634

共催 芦屋市原爆被害者の会

協賛 原水爆禁止兵庫県協議会/非核の政府を求める兵庫の会/
平和と民主主義をすすめる芦屋西宮の会



非核の政府を求める兵庫の会 市民学習会 上映とトーク

核兵器のない世界へ



日 時 12月21日(土) 14:00～16:30(開場 13:30)

会 場 兵庫県保険医協会 5階会議室

上 映 『核兵器の終わりの始まり』

トーク 「核兵器 Yes or No !? 議員ウォッチ 2019」リサーチャー

安藤 真子 さん

参加費 1000 円 主 催 非核の政府を求める兵庫の会
(問合先 電話 078-393-1833 shin-ok@doc-net.or.jp)

協 賛
神戸YWCAピースブ
リッジ/市民社会フ
ォーラム

【安藤真子(あんどう・まこ)さんプロフィール】

1995 年広島生まれ。神戸大学大学院修士課程 2 年生。高校時代より、核兵器廃絶の署名や被爆証言を集める活動に関わる。ユネスコ青少年平和大使や「第 20 回核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) ユースサミット」議長なども務める。2018 年 1 月と同年 9 月に出航したピースボートに「おりづるユース特使」として参加。核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員の川崎哲氏とともに「核兵器 Yes or No !? 議員ウォッチ 2019」を立ち上げる。



○反核医師の声 (10) ○

2017年に国連で採択された核兵器禁止条約は50カ国の批准で発行されます。現在33カ国が批准しあと17カ国が批准すれば発効されます。唯一の戦争被爆国である日本こそ先頭に立って核兵器禁止条約に参加すべきですが、残念ながら核兵器保有諸国とともに条約参加に否定的です。

核兵器廃絶を求める国際的な市民社会と連帯し、日本で何ができるか？

世界の反核のキーパーソンを取材した最新ドキュメンタリー『核兵器の終わりの始まり』を上映し、「核兵器 Yes or No!? 議員ウォッチ2019」を立ち上げた安藤真子さんにお話をいただきます。

『核兵器の終わりの始まり』

(アルバロ・オロス監督 2019年 56分)

【概要】

2017年7月7日、122カ国が、核兵器禁止条約に賛成票を投じました。核兵器を持っていないにもかかわらずその脅威に晒されている、世界多数の諸国による意思表示でした。核保有国とその傘下の国々は、オランダ一国を除いて採択の国連会議に参加さえせず、そのこと自体、核大国のメディアはほとんど報じていません。が、核兵器禁止へのあゆみは始まり、いま新しい何か生まれつつあります。

このドキュメンタリーでは、国際組織やNGOのリーダーたち、各国の反核活動家、学者、そして国連の会議で議長を務めた外交官ら14名へのインタビューを通じて、核兵器禁止を国際法として確立させるため、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン、2017年ノーベル平和賞受賞）がどのように活動してきたかが、生き生きと描かれます。

56分間の映像は、核兵器の歴史と、その登場以来、核兵器に反対し続けてきた人々の努力をたどります。2010年以降の、いわゆる人道的イニシアチブが、かつては夢とされた核兵器禁止条約を実現しました。従来の安全保障論議の枠を超えた新しいアプローチが、世界多数の諸国を動かしたのです。この歴史的な条約を発効させ、核兵器に悪の汚名を着せて地上から消し去るため、私たち一人一人にできることは何か。

その答えを指し示してくれる14人の声は、きっと見る人（あなた）の心に響くでしょう。

【インタビュー】

レイ・アチソン（カナダ） 婦人国際平和自由連盟/ペドロ・アロホ（スペイン） スペイン国会議員 /ベアトリス・フィン（スウェーデン） ICAN 事務局長/アイラ・ヘルファンド博士（USA） 核戦争防止国際医師会議/ダニエル・ホグスタ（スウェーデン） ICAN キャンペーンコーディネーター/キャスリーン・ラウンド（カナダ） 赤十字国際委員会 兵器担当課長/ラファエル・デ・ラ・ルピア（スペイン） 戦争と暴力のない世界/アリス・スレイター（USA） 核時代平和財団/スージー・スナイダー（USA） PAX オランダ/サーロー節子（日本） 広島被爆者/カルロス・ウマーニャ博士（コスタ・リカ） 核戦争防止国際医師会議/エレヌ・ホワイト・ゴメス（コスタ・リカ） 国連核兵器禁止条約交渉会議議長/ウォード・ウィルソン（USA） 歴史家 作家/ティム・ライト（オーストラリア） ICAN 条約コーディネーター



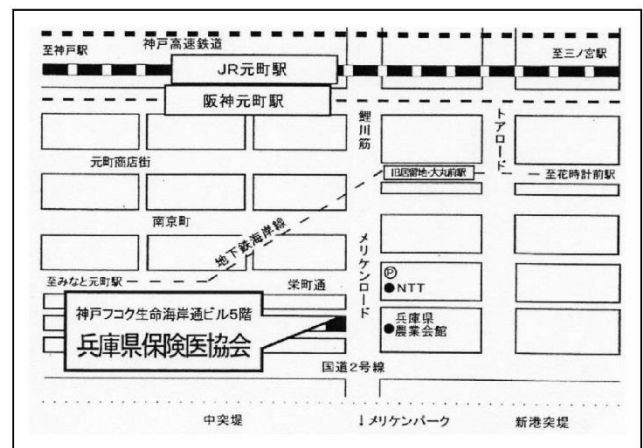
サーロー節子（日本） 広島被爆者



ベアトリス・フィン（スウェーデン） ICAN 事務局長



スージー・スナイダー（USA） PAX オランダ



【会場】 兵庫県保険医協会

JR/阪神「元町駅」から南 徒歩10分 兵庫県農業会館向かい
〒650-0024

神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5階

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部 市民学習会のご案内

ハンセン病問題と私たちの責任

日時 2020年2月15日(土) 14時～

会場 兵庫県保険医協会 5階会議室

講師 ハンセン病家族訴訟弁護団共同代表 徳田 靖之 先生

参加費無料 どなたでもご参加歓迎です



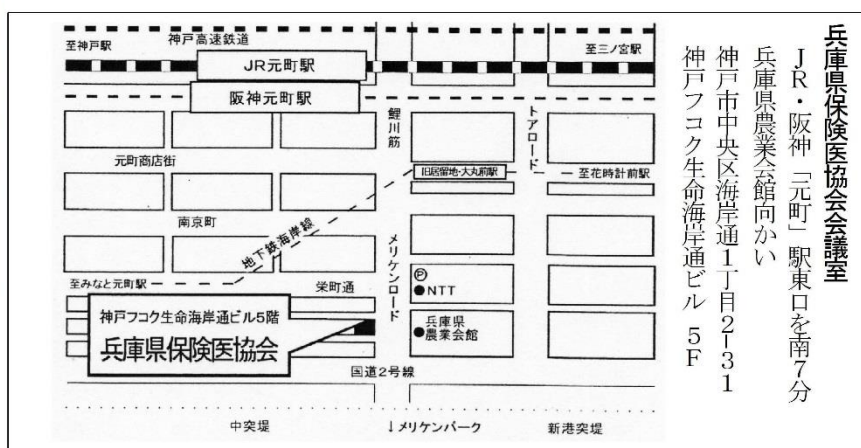
徳田 康之 先生 ご略歴

〈とくだ やすゆき〉1944年生まれ。大分県別府市出身。67 東大法学部を卒業。69 年弁護士登録。ハンセン病国賠訴訟、同家族訴訟、薬害エイズ訴訟、飯塚事件再審査請求等を手がける。大分県弁護士会所属。

2019 年 6 月 28 日のハンセン病家族訴訟の熊本地裁判決を受け、ハンセン病隔離政策で差別を受けた元患者家族に対し、補償法と名誉回復を図る改正ハンセン病問題基本法が 11 月 15 日に成立しました。補償法は前文で、偏見と差別によって家族が受けた苦痛に対し、国会と政府が「悔悟と反省の念を込め」「深くおわびする」と明記しています。

ハンセン病患者・家族への差別・偏見による人権侵害については、医療界も含めた私たち社会全体による加害の反省と責任も問われる問題であります。

ハンセン病問題の歴史と現状を学ぶ中で、私たちが教訓にしていく課題を、ハンセン病裁判など半世紀にわたり弁護士活動を続けられている徳田靖之先生にお話いただきます。



お問い合わせは、保険医協会事務局 TEL 078-393-1809 email shin-ok@doc-net.or.jp (担当: 岡林) まで

【FAX返信 078(393)1820】 ※切り取らずこのままFAXしてください

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 市民学習会 「ハンセン病問題と私たちの責任」に参加します

所 属() お名前()
TEL() FAX()

兵庫県保険医協会／協会西宮・芦屋支部

阪神・淡路大震災 25 年の集い

阪神・淡路大震災－東日本大震災－原発事故

阪神・淡路大震災から 25 年。兵庫県保険医協会・協会西宮・芦屋支部は、前回 5 年前の集いに引き続き、「阪神・淡路大震災 25 年の集い」を開催いたします。今回は「震災経験を語り継ぐ・風化させない・新たなつながりを広げる」ことを目的に、災害経験の中でいのちと暮らしを見つめ、生活する権利や平和を共に考える場としたいと思います。

2 つの大震災と東京電力第一原発事故についての検証と課題の講演と報告など、阪神・淡路大震災からの 25 年を振り返って参りたいと思います。市民、ボランティア関係者、医療関係者など、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

【プログラム】

- | | | |
|-------|------------------------------------|------------------------------|
| 13:00 | 二胡の演奏 | 劉 揚 氏 |
| 13:15 | 開会あいさつ | 兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部支部長 法貴 憲 先生 |
| 13:18 | 「兵庫県保険医協会・西宮・芦屋支部の報告」 | 兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部副支部長 広川 恵一 先生 |
| 13:38 | 講演Ⅰ「阪神・淡路大震災 25 年の検証」 | |
| | 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科科長 室崎 益輝 先生 | |
| 14:18 | 報告①「阪神・淡路大震災でのアスベスト被曝」 | |
| | 兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部世話人 上田 進久 先生 | |
| 14:28 | 報告②「阪神・淡路大震災借り上げ復興住宅立ち退き訴訟について」 | |
| | 神戸市・借り上げ復興住宅居住者 丹戸 郁江 氏 | |
| 14:38 | 休憩 (15 分) | |
| 14:48 | 講演Ⅱ「東日本大震災後のメンタルヘルス」 | |
| | 南相馬市・ほりメンタルクリニック院長 堀 有伸 先生 | |
| 15:28 | 報告③「外国人から見た大震災」 | |
| | 久留米大学外国語教育研究所講師 ディヌーシャ・ランブクピティア 先生 | |
| 15:48 | 講演Ⅲ「原発のない世界へ」 | |
| | 元京都大学原子力実験所助教 小出 裕章 先生 | |
| 16:28 | 質疑・ディスカッション | |
| 17:07 | 閉会あいさつ | 兵庫県保険医協会理事長 西山 裕康 先生 |
| 17:10 | 終了予定 | |

と き 1 月 18 日(土) 13 時 00 分～(開場 12 時 30 分)

ところ 西宮市立勤労会館大ホール 右図参照
西宮市松原町 2-37 (JR 西宮駅南へ徒歩 10 分) TEL0798-34-1662

入場無料 どなたでもご参加いただけます

主 催 兵庫県保険医協会/協会西宮・芦屋支部

〒650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル 5 階 TEL/ 078-393-1803 FAX/ 078-393-1802 E-mail/ shin-ok@doc-net.or.jp

共 催 西宮市職員労働組合 後 援 西宮市／西宮市教育委員会／芦屋市／芦屋市教育委員会／神戸新聞社



【FAX 返信 078 (393) 1820】 ※切り取らずこのまま FAX してください

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 「阪神・淡路 25 年の集い」に参加します

所属() お名前() TEL()